

夏場の結露による虫の発生



東洋産業だより

Vol. 187
2019年8月号

夏らしい気候となりました。暑いこの時期、冷たい飲み物を飲もうとすると、コップが汗をかく現象「結露」をよく見かけます。今回はこの結露と虫の関係を解説します。

結露という現象をおさらいすると、温かく湿った空気と冷たい空気の境目にある物体の、温かい空気側の表面に、水が付着するというものです。よって、室内側の温度が低い夏は、室外側が結露しやすいということになり、これを防ぐため、通常の建物は壁の中や天井裏等の断熱処理をしています。

しかし、当初から結露を考慮した設計になっていない、一部が断熱されていない、断熱の能力が足りない等の理由により、これらの場所で結露が起こっている事例もしばしばみられます。また、空調機周辺や冷蔵庫、冷水管等、室温より低温の設備がありまます。これらの場所についても断熱処理が不十分で結露している場合がよくあります。

表 チャタテムシ類とチョウバエ類の生態

チャタテムシ類	チョウバエ類
卵～成虫:約45日 産卵数:約80個 食物:カビなど	卵～成虫:約15日 産卵数:約240個 食物:濡れた有機物
	

結露を防ぐ方法は、適正に断熱できる設備にするほかはなく、広範囲で結露する場合への対応は、高コストとなります。結露が特定の場所で発生している場合には、局所的な断熱材設置やファンで風を当て続けて乾燥させるという方法がありますが、決め手にはなりません。

結露による虫の発生については、結露によってカビが出てくる場合、これを食べるチャタテムシ類（特に翅を持つ種）が、水がたまって水域ができた場合はチョウバエ類があげられます。

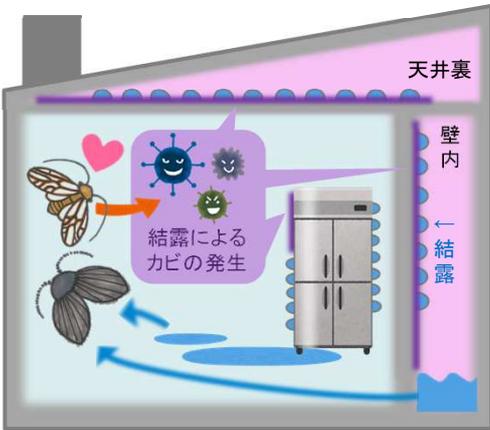


図 夏の結露と虫の発生

夏場で厄介なのは、天井裏や壁内の断熱が不十分で結露する場合です（図参照）。容易に目視できない場合が多いことから、詳細な発生源が特定しにくく、また清掃や殺虫処理も難しいためです。さらに、虫が大発生するまで気づかないことに加え、この2種類の虫は繁殖のスピードが早く（表参照）、問題が発覚してからもさらに状況が悪化しがちです。トラップやファイバースコープ等を用い速やかに発生源を探して対処を行いましょう。発生原因を断つため、水たまりの清掃やカビの除去を検討し、清掃が難しい場合は、殺虫剤の噴霧と散布を組み合わせて対応することが有効です。

結露による虫の発生にお困りの場合や、その可能性が疑われる際には、ぜひ弊社にお声かけください。

今月の豆知識：セミの寿命は何日？

夏の風物詩である、セミが大合唱する時期となりました。地上に出てきたセミの寿命は一週間程度であるという認識が根強いのですが、実際には1か月程度とされており、最近、高校生がこれを検証したことをご存知でしょうか？

そもそも、なぜ「地上に出てきたセミの寿命は一週間程度」という俗説が広まったのでしょうか。それは、セミの飼育が難しく、飼育下ではセミが1週間程度で死んでしまうことから勘違いしていたからだと思われます。その寿命の短さの割に、セミの死骸は夏の間に見かけることが少なく、8月後半から9月ごろの夏の終わりによく見かけることを疑問に思った岡山県内の高校生は、野外のセミを捕まえてマーキングし、後日再捕獲する手法で調査しました。この結果、アブラゼミ、ツクツクボウシ、クマゼミの3種で10日以上生存を確認し、最長でアブラゼミが32日間、ツクツクボウシが26日間、クマゼミが15日間という結果になり、セミが長いものでは一か月以上生きることが分かりました。

セミの寿命は短く、儚い生き物の印象がりましたが、案外たくましい生き物なんですね。セミ以外にもそういった「誤解」をしている生き物を調べてみるのも面白いかもしれません。



東洋産業株式会社

本社 岡山市北区新屋敷町3-19-20

TEL 086-241-8080
FAX 086-241-8094

拠点 高松・松山・金沢
大阪・姫路・岡山・倉敷・福山・広島

www.to-yo-s.co.jp

(バックナンバー掲載中)